

長くいきいきと 活躍できる社会を目指して

厚生労働大臣から同意通知書

厚生労働省が進める事業に、「中泊町生涯現役いきいき活躍プロジェクト」が採択され、5月14日(火)に厚生労働大臣の同意通知書が濱館町長に手渡されました。

厚生労働省では、少子・高齢化が進展する中、健康で意欲と能力がある限り年齢にかかわらず働き続けることができる生涯現役社会の実現に向けて、「生涯現役促進地域連携事業」を進めています。この度、青森県では中泊町と平内町の2事業が採択されました。

厚生労働省が平成29年から進めていた、人口減少に伴う労働力不足に対応するため、高齢者の雇用創出を目指す「生涯現役促進地域連携事業」は、自治体が主体となつて高齢者がいきいきと活躍できる環境づくりを最大3年間支援するもので、予算は国が全額負担します。

中泊町の「中泊町生涯現役いきいき活躍プロジェクト」は、定年退職後の高齢者を対象の就職相談窓口を設置し、企業とのマッチングを図るほか、各種セミナーで高齢者の活躍を支援します。事業期間は3年間で予算は5200万円を見込んでいます。商工会議所や社会福祉協議会などの関係団体で構成の協議会が、雇用に関するアンケートを実施し、就労に関する各種セミナーを実施する予定です。

事業採択を受けて濱館町長は「労働力不足の中、まだまだ働ける人がいる。うまくつながると、町の振興となり、町全体が元気になる。他自治体の模範と慣れるよう取り組んでいく」と話しました。



サルビアで町に彩りを

中里高校生が全校奉仕活動

中里高校(校長・大瀬雅生)が毎年恒例となっている全校奉仕活動を5月27日(月)に実施しました。今年は、米マイロードに面する「うるおい広場」で、福浦コスモス会(代表・竹内恭一)の皆さんと一緒に約5,000本のサルビアの苗を植えました。福浦コスモス会では毎年、町の農地水保全事業の一環で、花壇の管理をしています。今年は、初めて中里高校と植えることを受けて竹内さんは「花を通じて地域への愛着を深めて欲しい」と話しました。大瀬校長先生は「様々な体験を通じて、生徒たちにいろいろな交流をして欲しい」と話しました。1年生の小野桃加さんは「全校生徒で植樹したことは思い出に残る。サルビアをたくさんの人に見て欲しい」と話しました。中里高校は5月31日(金)に、内潟療護園の入所者らとともにヒマワリの種の植え付けを、同校敷地内で実施しました。



定植作業の機械化で高効率化を目指す

タマネギ栽培の実証試験

水田を利用した機械による「タマネギ」栽培の実証試験が、田茂木・坂本譲太さんが所有するほ場で始まりました。最初の作業は、4月20日(土)から23日(火)にかけて、苗を植える定植作業を行いました。

今回使用した機械は半自動型で、自走する乗用の定植機に2人が乗車して、^{うね}に定植する作業は機械が行います。作業はスムーズに行われ、約30アールの定植作業を実質3日で終わることができました。今後、町では収穫の際にも機械による実証作業を行い、その作業性・効率性を十分に検証し、タマネギ栽培普及の検討を行います。



凛々しい団員たちが魅せる

中泊町消防団定期観閲式

団員の士気高揚と町民の信頼と認識を高める中泊町消防団定期観閲式が、5月4日(土)に役場前で行われ、全12分団の団員が一堂に会し、日頃の訓練の成果を披露しました。また、中里こども園園児らの幼年防火クラブによる演技や、中里中学校吹奏楽部の演奏で、会場は一層の盛り上がりを見せていました。結果は次の通りです。

■玉落とし競技(自動車ポンプの部)

第1位…第3分団、第2位…第9分団、第3位…小泊分団

■玉落とし競技(可搬式ポンプの部)

第1位…第6分団、第2位…第10分団、第3位…第1分団

■優良分団

第1位…第3分団、第2位…第8分団、第3位…第10分団



シーズン到来! 大会記録も続々

西北五春季陸上競技選手権大会

晴れ渡る空のもと、絶好のコンディションの中、「令和」最初の陸上競技大会が、5月5日(日)に総合運動公園で開催されました。多くの種目で大会新記録が誕生し、「令和」の記録に塗り替えられました。



ゲートボールはまだまだ現役!?

秋元みやさんが100歳顕彰

ゲートボールが大好きで、大会で何度も優勝したという秋元みやさんが、5月11日(土)に100歳の誕生日を迎え、濱館町長から顕彰状が贈られました。

みやさんは足腰が健在で、今でも月に数回、往復約1.2キロの道のりを歩いて買い物に行くそうです。また、自宅の畑でササゲやトウモロコシ、ジャガイモを育てていて、毎日の食事でも自炊しているそうです。顕彰状を受け取ったみやさんは「とてもうれしい」と目を細めながら気持ちを伝えてくれました。

顕彰に立ち会った長男の勤さんは「地元で取れた新鮮な魚をはじめ、なんでもよく食べることが今日に繋がったと思う」と喜びました。



令和から昭和にタイムスリップ!?

旧車ミーティングinなかどまり開催

5月12日(日)に総合文化センター「パルナス」の駐車場で、往年の名車約70台が集まり、旧車ミーティングinなかどまりが開催されました。

このイベントは、博物館で開催された企画展「ザ★昭和図鑑【後編】」の中で、元号改正に合わせて実施されました。

また、1968年に世界一周に挑んだ「ベレット1600GT」とそのドライバー小林捷成さん(宮城県)も駆けつけ、会場には客足が途絶えませんでした。

実行委員長の木村巧さんは関係者へのお礼を交えながら「旧車の魅力で新たな交流人口創出につながったのでは」と約700人の来場者数に手応えを感じていたようです。



泥にまみれながら一生懸命に

中里小と武田小で田植え体験

田植えを通じて自然にふれ合ってもらおうと、若手農業者を中心に構成される「ばろかだる会」の代表 小野大海さんの田んぼで5月15日(水)、中里小学校5年生19人が田植え体験をしました。

児童たちは裸足で田んぼに入り、泥の感触に声を上げながら、丁寧に苗を植えていました。加藤煌翔君は「しっかり植えることができた。秋の収穫が楽しみ」と話しました。中里小では、秋に稲刈りも体験する予定です。



これからの漁業 これからの下前漁協

下前漁協が濱館町長と意見交換会

将来の漁業を語らうべく、下前漁業協同組合が濱館町長と町職員を招き、5月15日(水)にすくすくしたまえ館で意見交換会を開きました。濱館町長は冒頭のあいさつで「漁業で生きていく我々が何をしなければならないのか。本気で考えないと来年、再来年は、今と同じようにしていただける保障はない。この意見交換会を通じて、若い人が漁業で生活していけるよう一緒に考えていきたい」と意気込みを述べました。意見交換会では、不漁に頭を抱える漁業が、安定した経営ができるよう、高付加価値や生産性といったメリットがある養殖漁業の魅力や可能性、そして中泊町沿岸でも事業計画が進む洋上風力発電と小泊地域の将来像を話し合いました。過去の漁業や他地域の漁業も話題にのぼり、参加者たちの間で共通の認識を持つことができたようでした。



交通事故ゼロ4500日！

中里支部が表彰される

交通事故4500日を達成した交通安全協会中里支部が、4月29日(月)に五所川原警察署と五所川原地区交通安全協会から表彰されました。

5月16日(水)には、古川龍美支部長と横山聖子さんが濱館町長へ表彰を報告しました。

古川支部長は「日頃の活動が実を結んだ。次は5000日を目指したい」と活動への意気込みを語りました。



きれいな港を守るために

小泊清港会が清掃活動

漁師や漁協関係者、建設業者などで構成される小泊清港会が、5月17日(金)に、小泊漁港付近で清掃活動を行いました。100人以上が参加し、陸上のゴミや漂着したゴミ、捨てられた廃タイヤやロープなども回収し、清掃後は見違えるほどきれいな港になりました。



地域の行事のお手伝い

中里高校生がお田植え祭に参加

豊作を願う津軽豊年祭「お田植え祭」が、5月25日(土)に山王坊日吉神社(五所川原市市浦)で行われ、中里高校の生徒たち19人が参加しました。

この行事は、人口減少が進む中で、地域への愛着と活性化のために行われ、中里高校はボランティア活動として参加しています。

神事を行ったあと、^{さおとこ}早男と^{さおとめ}早乙女の衣装をまとして田植えを行い、初めてこの行事に参加した北島姫愛さんは「泥の感触に驚いた。地域の行事の手伝いができてよかった」と話しました。

非常時に慌てないために

折戸地区自主防災会と新町2地区自主防災会が避難訓練

津波を想定した避難訓練を折戸地区自主防災会(会長・臺丸屋優)が5月23日(木)に実施しました。折戸地区自主防災会は昨年10月に設立され、学習会や避難所の物資確認など災害対策に積極的に取り組んでいて、避難訓練は同会初めての実施となりました。

避難訓練では、津波を想定して自宅から折戸地区の避難所へ避難する内容で、住民らは避難路を確認しながら、避難所へ向かいました。臺丸谷さんは「改めるべき所は改めて、万が一のときにスムーズに避難できるよう、今後も訓練を実施していきたい」と意気込みました。

濱館町長は「どうすれば安全に避難できるのか、それぞれの地区の事情に合わせて、町も一緒になって考えていきたい」と話しました。

また、新町2地区の自主防災会(会長・熊木繁春)も、地震と津波を想定した避難訓練を5月26日(日)に実施しました。午前11時30分の防災無線のチャイムを開始の合図に、



指定の海拔の高い所へ避難し、避難経路の確認をしました。

そのあとは、「老人憩いの家」に集まり、ハイゼックスを使って炊いたご飯をカレーライスにして食べました。このご飯は、避難訓練前に用意したもので、子どもたちも体験していました。熊木会長は巨大地震・巨大津波はいつ来てもおかしく無いことに触れながら「いざという時に困らないよう、日頃の訓練で確認をしっかりとっていきたい」とさらなる地域の防災力向上への思いを話しました。



地域のために汗を流す

小泊婦人会がボランティア活動

地域の景観を美しく保つため、小泊婦人会(代表・秋元英子)がボランティア活動で、草刈りを実施しました。20年以上毎年この時期に、活動に取り組んでいるそうです。秋元さんは「地域の人が暮らし、観光客も訪れるところを少しでもきれいにしたい」と思いを語りました。草刈りは、すくすくこども館の裏側の密漁監視塔付近から始まり、小泊支所までの約450メートルに渡って行われました。

善意をありがとう

竹内組企業グループ従業員から寄付金

中泊町社会福祉協議会へ「社会福祉事業に役立ててください」と「竹内組企業グループ従業員」の皆様から寄付金の贈呈がありました。社会福祉協議会の秋元会長は、「毎年ご寄付いただいております、今回もこのようにいただくことができました。いただいた寄付金は中泊町の地域福祉推進のため、当会の事業等に有効に活用させていただきたい」と感謝の言葉を述べていました。